

# 1月定例記者会見 会見録

令和5年(2023年)1月6日(金) 11:00~12:00 庁議室

## 質疑応答

### ■おくやみ窓口の開設について

#### 記者A

他の自治体でもやっているところがあるかと思いますが、このタイミングで開設を進めた理由についてお伺いできればと思います。

#### 市長

以前からこのようなものが必要であろうというのは、担当課でも認識をしていました。他自治体の事例等を調査して、準備が整ったので、今回実施するということです。

#### 記者A

市民の方から要望があり開設したわけではないということでしょうか。

#### 市民部長

市民の声もありました。

#### 記者A

これまで複数か所を回る必要があったところ、1か所でできるようになったということだと思いますが、大体どのぐらいの事務作業が1か所でできるようになったのか教えてください。

#### 市民部長

資料のとおり、29の手続きが対象です。この手続きについては、人によって該当するものとしなないものがありますので、実際の数変動するものと考えています。

#### 記者A

担当される課と言いますか、職員はどういった形で対応されるのでしょうか。

**市民部長**

最初は市民部市民窓口課の職員が対応します。そのあとは順次、対象事務の担当者が代わる代わる窓口へ来て対応する予定です。

**記者B**

1日何人まで対応するのかということと、「おくやみ窓口」という窓口として対外的に分かるようなコーナーをつくられるのかについて、お聞きしたいです。

**市民部長**

1日2枠を考えています。これは予約制で行う予定です。

**記者B**

2枠だと少なくないですか。

**市民部長**

他の実績や、死亡届の数から、これで大丈夫だと考えています。

**記者B**

1件につき、時間はどれくらいかかるイメージなのでしょうか。

**市民部長**

概ね1時間半程度かかると考えています。

**記者B**

最大29の手続きということでしたが、手続きの数は平均的にはどれくらいでしょうか。

**市民部長**

10から20ぐらいの手続きと考えています。

**記者B**

10から20ぐらいの手続きに、1時間から1時間半ぐらいの時間がかかるということで、午前1枠、午後1枠ぐらいのイメージでしょうか。

**市民部長**

はい。

**記者B**

「おくやみ窓口」という名前の窓口ができるのでしょうか。

**市民部長**

「おくやみ」という言葉は使いません。2階の45番窓口で行う予定です。

**記者C**

いくつかの自治体が先行してやられていると思うのですが、そのようなところの市民の要望などを踏まえて、つくば市ならではのものは何かあるのでしょうか。

**市民部長**

様々な自治体の調査をしましたが、特別につくば市だけがやるようなものはございません。

**記者C**

つくば市民の要望も、大体のものはカバーできるというお考えでしょうか。

**市民部長**

はい。

**記者D**

29の手続きがあるということですが、何か所に行く必要があったのが1か所で済むのかということをお教えいただけますか。例えば、個別で手続きをすると何時間かかっていたものが、1時間半に短縮されるなど、変化をお教えください。

**市民部長**

仮に高齢者が亡くなった場合、10程度の手続きが必要になり、5つの課に行く必要があります。あくまでも想像なのですが、半日程度かかるのではないかと考えられます。

**記者D**

県内の自治体のうち、どこがやっているのか把握されていたら教えてください。

**市民部長**

茨城県内では、取手市、日立市、小美玉市、つくばみらい市等がやっていると把握しています。

**記者D**

県内の他の自治体との比較で結構なのですが、手続きが29というのは、他よりも多いのか、他ではあまりやっていない手続きをカバーするようにしたのか、その辺りを教えてください。

**市民部長**

その辺りについては、それほど変わりはなく、他の自治体と同じぐらいという認識です。

**記者E**

最初にどんな手続きが必要なのかわからない場合には、予約段階で、これだけの手続きが必要だということを教えていただけるのでしょうか。

**市民部長**

はい。死亡届が上がってきた時点で、こういった手続きが必要かを市役所で調べ、それを通知するという形です。

**記者E**

通知後に予約するという形ですか。

**市民部長**

はい。そのとおりです。

**記者E**

3家族から予約が入った場合は、3家族を対応するのですか。それとも、2枠という

原則は崩さないのでしょうか。

## 市民部長

はい。午前1枠、午後1枠で考えており、それ以外は別の日に予約していただきます。

## ■市内県立高校について

### 記者F

子どもがかなり増加している中で、つくば市として県に対して県立高校の新設等を要望されたと思います。一方、県としては、知事と教育委員の方からも、つくば市立の高校を作るのが良いのではないかという意見が出ていると伺っています。こちらについては、つくば市としてはどのようにお考えでしょうか。

### 市長

発言の詳細は承知しておりませんが、あまり深掘りしてコメントはできませんが、私は県立高校を作るというのは、県の当然の仕事だと思っています。これだけ人口が増加しているつくば市において、やはり県として責任を持って県立高校を作っていたきたいというのは、何も変わるものではありません。市としては、今も建設中の新しい学校が今年の4月に3つ開校します。その3つを含め、目先だけでも6つ新しい小中学校を作っていきます。基礎自治体で小中学校を6つ作れるわけですし、そのような努力をしているわけですので、財政も豊かな県で、県立高校の1つを作っていたくことができなないということはないと思っています。引き続き、これは当然県の責任の中で進めていただきたいと思っています。

### 記者F

今のところ、正式に県側からつくば市に、市立高校を作ってはどうかというような提案はされていないということでしょうか。

### 市長

はい。何も来ていません。

### 記者F

今おっしゃっていたように、まず義務教育を整えるということで、小中学校の新設を

かなり急がれている状況かと思います。そうすると、市立高校などはまだ考えていないと思うのですが、市立高校という話が出てきても、予算的に難しいところもあるのでしょうか。

## 市長

そうですね。本来であれば、学校建設というのは、もう少し先手、先手で進めなくてははいけなかったと思うのですが、私が就任してすぐに財政人口推計を見直したところ、今までのものでは全く足りないということが明らかになり、それを踏まえて方針を作ってきました。教育委員の方々が一体どんな発言をされたのかは詳細までは承知しておりませんが、市としては、当然果たすべき責任を全力で果たさなくてははいけないと思っていますし、学校に入れないということがあってはいけません。当然、教育は最優先事項の一つでありますので、市として責任を持って取り組んでいきます。そのような中で、市立高校のニーズという話は、本来県立高校がきちんと作られていけば必要のない話ですので、県がつくる意思があれば、そもそも市立高校という議論すら始まらない話のはずです。それを教育委員の方や知事からお話をされるというのは、どういう意図なのかわかりません。私どもとしては変わらず、基礎自治体の責任である義務教育の小中学校をきちんと作っていき、県には当然の責任として、県立高校を作りたいという思いは全く変わっておりません。議会でお答えする予定ですが、基礎自治体で6つ学校を作るという結構大変なことを一生懸命している状況の中で、市立高校を考えることは残念ながら今は非常に難しいので、これはきちんと県にお願いをしたいと思っています。

## 記者F

以前から子どもが増えている中で、コロナ禍で首都圏のリモートワークが増え、より加速している状況があるかと思うのですが、この増え方につきましては、つくば市としても、やはり想定外のところはあるのでしょうか。

## 市長

市としても、統計・データ利活用推進室という組織を作り、人口推計をかなり細かく分析してもらっています。当然推計ですので、多少上下に振れることはあるかもしれませんが、ですが今のところ、非常にきちんとした推計をしていただいていると思っていますし、それ以前に行っていた推計も随時見直しをしながら行ってきていますので、想

定外ということではなく、その範囲内に収まっているかと思います。ただ、研究学園小中学校とみどりの南小中学校（当初から増築校舎を想定した設計としている）を作って足りるとなっていた状況は、みどりのについては幾分上振れの数字だと思っておりますが、それ以降に関しては予想している伸びです。つくば市としては、今後も2048年までは人口が増加していくという推計が立っていますので、急に人口が増えて慌てているというような状況ではありません。つくば駅の周辺でも新しい開発等が進んでいますが、常にそういった情報を早めに入れていきます。事前に校舎の増築が必要であれば、増築をしていくというような段取りを一つずつ取りながら進めていますので、つくば市の範疇においてはコントロール下にあると思っております。

### 記者G

昨年、知事が「市立高校をつくれれば教員は県が面倒を見ます」というような発言をしていたのですが、1と0ではなく、相互に何かつくば市がやることなど、そういった協議をする考えはありますか。

### 市長

今はその段階ではないと思います。県立高校を作るというのは、県の職責です。県としてどうしてもつくれませんという話で、向こうから協議の要望があれば開始するかもしれませんが、これまでも述べているとおりで、つくば市としては現在6校の小中学校の建設を進めている中で、私からすれば、なぜ県に県立高校の1つもつukれないのか到底理解できません。県の財政規模、財政状況、そういったことも含めても、市立高校の話をする前に、県としての本来の仕事をしていただければ、この話はそれで済む話ではないかと思っています。

### 記者H

市長の立場からすれば、財政の問題でできないということはよく分かります。ですが、むしろこれを機会に、つくば市の教育環境の魅力度アップというような観点、つまり、財政の問題ではなく、市として教育環境をよりアップするために、県がそのような立場であれば積極的に市立の高校を作るアピールをした方が、市民やこれからつくば市に将来住みたいと思っている方々に対して、魅力度を発信する機会になるのではないかと思います。嫌だと言うよりも、やると言った方が、市長という政治家の立場としては正しいのではないかと思うのですが、そのような観点はどうですか。

## 市長

県立高校を作るというのは県の仕事ですし、人口が増えているつくば市で、私どもの責任である小中学校を一生懸命作っていますし、県もつくば市への移住のキャンペーン等を様々行っています。当然、小中学校を卒業したら多くの場合高校へ進学するわけです。その高校を県として作るということが、つくば市への移住キャンペーンを行っている県としても教育環境のアピールになりますし、おそらく知事の政治的な判断としても正しいのではないかという解釈もできると、お話を聞いていて思いましたので、ぜひそのまま県にお伝えいただければ幸いです。

## 記者H

県のスタンスは、将来的にクラスを増やすということ、それからつくば市に限定せずに、牛久市や柏市など周辺の通学可能な地域を大きなゾーンとして見て、その中で考えるということ、基本的にこの2つの方針かと思います。教育行政は、基本的に年度でいきますので1回決めると1年間動きません。万が一、その計画のプランニングを始めると2、3年かかります。これからつくばの中学生がどんどん増えて高校に行くという中で、つくば市が頑なに、先ほど市長がおっしゃったような立場を保っていくと、県と市の狭間で、市民が谷間に落ちてしまいます。やはり行政のスタンスとして、その谷間に落ちる保護者ないし生徒を救うというのが、基本的に考えなくてははいけないと思います。このまま行くと、話し合っても1年かかります。さらにもっと詳しい詰めの話をするると2、3年先に実現するということになる、中学卒業生などがその狭間に落ちていくことになります。これでは問題解決しないのではないかと思うのですが、むしろこういう状況を救うという発想でないと、行政が成り立たないかと思えます。これについてはどうですか。

## 市長

何度も言っていますが、つくば市が現在、市立の小中学校を作っています。例えば、私がここで「つくば市は、もう財政的に苦しいですから、つくば市立の小中学校は県立にしてもらいましょう。それが一番いいでしょう。」という発言をしたら、皆さんはどう思われますか。そのような次元の話だと思います。本来果たすべき責任を果たさずに何かを提案するというのではなく、本来果たすべき責任を果たしてから何か次のステップに行くというのであれば分かります。それをせずに、ただ「作らないから市で」という発想になり、それを「そうですか。では市民も大変だから、市で面倒を見



ます。」というようなことをしていたら、自治体間の関係であったり、あるいは県としての使命であったり、そういったものは一体どこに行ってしまうのだろうかというようなことも考えております。そういったことも含めて、私は、市は市としての責任を果たし、県は県立高校を作るという県としての責任を果たして欲しい。そのための要望をこれまでも続けてきましたし、今後も続けていかななくてはいけないと思っています。そのような中で、ぜひメディアの皆さんにも、本来の責任がどこにあるのかということも含めてお話をいただけた方が、より日本の地方自治も成熟していくのではないかと思いますので、ご協力いただければ幸いです。

## 記者H

洞峰公園もそうですし、県と市の間で論争していて、行政のそれぞれの範囲で論争することで時間が経って利益をあずかれない市民が出てきます。それを放っておいても良いのですかということです。

## 市長

県が県立高校をつくれればこの問題は解決するわけですし、そして県にそれができない理由というのは、私は全くないと思っています。財政的にも、県の財政を考えれば当然できるでしょうし、なにしろ県の予算と市の予算では財政規模が全く違いますので、県としての優先順位を高めていただければ、当然解決する問題です。市民を放っておかないようにしてもらうために、そのようなお考えを持っていただけるように、これからも働きかけを続けたいと思っています。

## 記者I

県としては、つくばサイエンス高校の2学級を増やすということもありますし、定員割れしている高校があるのも、新たに建設しない理由の一つとして挙げていますが、バスを増やして現在ある高校へのアクセスを良くするなど、何かそのようなお考えはあるのでしょうか。

## 市長

1年ほど前に、県の教育長がいらした際も、市として市内の高校へのアクセスを改善するようなことについての協力は惜しまないという話をしています。当然、具体的な動きが出てくれば、そういった協力もできるとは思っていますが、交通手段だけの間

題なのか、あるいは現在定員割れしている理由がどのようなところにあるのかといったことも含めて、やはり県としてきちんと考えていただく必要があると思います。何より、そこで少しカバーしても到底足りない数の子どもたちが現在います。私が申し上げたのは、周辺の魅力を高めることや、交通アクセスを高めるということは当然のことであって、それに対して協力は惜しみません。ですが、まずは一つ、核となる県立高校を作ってから、併せて周辺の魅力アップも同時並行的に進めなければ、とてもこの状況には対応ができないのではないのでしょうかという話です。これはぜひ期待したいところです。

## 記者E

市長の先ほどのお話を聞いた上で、高校1校を作って運営していくというのは、かなり難しいとは思いますが、今のところ検討する段階でもないということですか。

## 市長

県に責任を持って検討していただきたいと思っていますので、今、市で検討する事項ではないと考えています。何を検討というかが難しいです。これまで議会でも答弁していますが、やはり市立高校を建設するとなれば、費用も運営も含めて、非常に様々な事案が発生してきます。現在、新しい学校6校を建設中のつくば市で、そこで手を広げて高校をまた作っていくということではなく、やはり今はきちんと県に検討していただきたいと思っています。

## ■洞峰公園について

### 記者F

昨年お伺いした段階では、県としては、まずは建築基準法上の手続きを進めていきたいという話だったと思うのですが、つくば市としては、できればその前に話し合いを、ということだったと思います。前回の定例記者会見後、話し合いは実際にもう進められているのか、建築基準法上の手続きなどが今後始まる予定があるのか、現在の進捗についてお伺いできればと思います。

## 市長

移譲云々という話が出ていますが、そもそも費用が分からない中で移譲という話はないと思います。正確に現在いくらぐらいの管理費がかかっているのかということにつ

いては、担当課レベルで情報を共有しているところです。建築基準法に関する手続き等については何も来ていませんし、そのような協議をしている段階で、県がそういったものを出してくるとは思いませんので、現在のところはそのような協議を続けているという状況です。

#### **記者F**

現在の段階では、選択肢の一つである移譲に必要な情報をまず提供してもらっているということでしょうか。

#### **市長**

はい。あらゆる選択肢を考える中で、やはり情報がないと、必要な判断に入りませんので、その前提となる情報を共有していただいているという状況です。まだ、今後についてはどうするという段階ではないことも、ご理解いただければと思います。

#### **記者A**

そうすると現在の段階では、値上げを引き続き求めていくのか、それとも無償で移譲されるのかなど、その辺りもまだ全く判断はできてない状態ということでしょうか。

#### **市長**

はい。必要な情報を集めて、協議をしているというところです。

#### **記者A**

いつ頃までに判断されるかなどのスケジュール感や目途が立っていればお伺いしたいです。

#### **市長**

特に時期的な縛りはないと考えております。必要な情報がきちんと得られるまでは協議を続けなくてはいけないと思っていますし、それを踏まえて、その次にどのようなことをしていくかということも、当然協議の上だと思っていますので、期限は特に考えていません。

## 記者G

移譲についての判断時期は決めないということですが、年明けに事前審査の相談が出たら、市としては建築審査会などの手続を粛々と進め、市長としては反対という意見を出すということによろしいでしょうか。

## 市長

現在、必要な情報等についての協議をしているところですので、そのような状況で何か申請が出てくるということは、常識的に考えればないのではないかと考えています。

## 記者J

必要な費用の情報が欲しいと協議を進めているというお話ですが、現状の協議の中身についての再確認として、どのような内容の協議を現在進めているのでしょうか。

## 市長

端的には維持管理費の詳細です。人件費であったり、どれぐらいの人数でどの施設をまわしているか、樹木の維持管理費にいくらぐらいかかっているかなど、そういった詳細の数字をお願いしているところです。

## 記者J

その上での協議というのは、まだされていないということでしょうか。

## 市長

1回で情報が揃うわけではありませんので、何度か話し合いをしながら、そういった情報を提供していただくようお願いしています。来週も県の方がこちらに来て、そういった具体的な維持管理費についてのお話をさせていただく予定です。

## ■国立環境研究所での福島県発生除染土再生利用実証事業について

### 記者A

市から国へ意見として伝えたものがあれば、お伺いしたいです。

### 市長

環境省もこれは当然認識してくださっていますが、事業をやるにしても、市民の皆さま

んの安全、安心の確保が大前提です。環境省に対して、その安全性等に関する丁寧な説明や、事業プロセスの透明性の確保、実証事業に関する積極的な情報開示等は真摯にご対応いただきたいと考えていますし、それは環境省としても当然そのつもりでいてくださっていると認識をしています。

#### **記者A**

環境省の方から、住民説明会の日程や、このような形で詳しく説明しますというような案内は何かあったのでしょうか。

#### **市長**

住民説明会はその調整が整い次第、環境省が実施する予定と聞いていますが、スケジュール等はまだ調整中と把握をしています。

#### **記者E**

国立環境研究所の方には市民からの問い合わせはあまりないようなのですが、市にはこの件について問い合わせはあるのでしょうか。

#### **市長**

近隣の方1名から、「賛成とか反対ではなく、候補地に選ばれたことを前もって教えてほしかった」とのご意見をいただいていると把握しております。

#### **記者E**

それを受けて、市として環境省に問い合わせや連絡などはしているのでしょうか。

#### **市長**

環境省からも当然連絡はいただいておりますが、これまであくまでも実証事業の候補地の1つとしてお話を聞いていまして、正式に実証事業が決定したものではないという認識ではいます。

#### **記者E**

もちろん周囲には、住宅や商業施設、個人のお店などもあるのですが、そのような国立環境研究所の周りの環境を含めて、市長としては、この実証実験についてどのよう

にお考えなのでしょうか。

## 市長

やはり住民の皆さんのご理解というものが重要だと思っていますし、他自治体の状況等もあると思いますので、説明会の範囲について、その対象範囲をきちんと決めていただいた上で、私どもとしては、できるだけ広く周知できるように、その方法を環境省と協議をしていきたいと考えています。

## 記者E

福島を除染土は、どうにか解決しなくてはならない問題ではあるのですが、すでに説明会が行われている埼玉、新宿あたりは、全ての住民から賛成を得ているように思えないのですが、つくば市の場合はどうでしょうか。

## 市長

当然あらゆる事象において、100もしくは0というのではないと思います。事故からの環境再生というのは福島県だけの課題ではないと考えていますが、環境省の事業として計画がされていると把握しています。まだ確認はしていませんが、市民の皆さんの安心感や安全の確保ということについて、環境省として正式にきちんと説明をしていただけると認識しています。市としても、やはり広報の周知など、そのようなことについては一緒に行っていく必要があるだろうと思っています。

## 記者G

つくば市から環境省に要望書を今後出すなどの予定はありますか。

## 市長

要望書という形では特に出す予定はありませんが、とにかく住民に対する丁寧な説明や、事業プロセスの透明性の確保、それから実証実験に関する積極的な情報開示等をお願いしたいということはお話をしていきますし、環境省も当然そのような認識でいてくださっていると思っています。

## 記者J

最終的につくば市としては、受け入れる、あるいは受け入れざるを得ない、それとも

別のスタンスがあるのか、その辺りについて何かお考え等がありますか。

## 市長

これは、受け入れる、受け入れないという話ではなく、国の事業を国の研究所内で行うものなので、そこに市として行政権の介入という形では入ることはありません。先ほども申し上げましたが、この除染土の問題は、当然福島県だけの問題ではなく、全国的に取り組まなければならない重要な課題だと考えています。地元の住民や地域の皆様のご理解、安全・安心の確保ということが大前提の中で、今後説明会等を検討していただいていると認識をしていますので、広報等でのそのサポートはしていきたいと考えています。

## 記者J

例えば、安全の確保ができるのであれば市として容認をするなど、そういったことも口を挟めないという解釈なのでしょうか。

## 市長

容認する権限がないですし、拒否をする権限もないわけです。行政というのは様々な法体系によって成り立っています。先ほどの教育の話もあれば、公園の話もあり、それぞれが法律のロジックの中で動いています。今般のことに関しては、国の事業として国の研究所を使うということに対して、法的に良いや悪いなどという話ではないと思っています。同時にこれは重要な課題ですので、その事業をもし行うことが決定したのであれば、行う前に必要な説明会等はきちんと行っていただきたいという要請を行っているということです。

## 記者E

あらかじめ市長に対して、国や環境省から事前に説明というのはありましたか。

## 市長

はい。ありました。

## 記者E

いつ頃ありましたか。

**市長**

去年の10月19日です。

**記者E**

それは環境省からですか。

**市長**

はい。環境省から直接話を伺っています。

**記者E**

この実証実験を行うという話ですか。

**市長**

いいえ。候補地の1つになっていると聞いていますので、実施の確定ではないという認識です。

**記者E**

期間や実証実験の詳しい内容、いつ頃に福島に戻すなど、そのような細かい説明まではないということですか。

**環境保全課**

そこまでの細かい内容はまだ聞いていません。そもそも住民説明会をいつ行うかも検討中だそうですが、大筋としては、所沢市や新宿区で実施する内容と同等程度と聞いています。

**■12月の茨城県議会議員選挙について**

**記者F**

昨年、茨城県議会議員選挙が行われました。つくば選挙区では、初めて地元の政治団体等からも当選が出たと思うのですが、そうしたところも含め、今後の県政への影響の変化等はあるのでしょうか。



## 市長

今回の、県議会議員選挙の結果は1名だけ票を伸ばしていましたが、端的に言えば、かなり現職に対して厳しい票が出たなという印象です。そのような意味で、やはり変化への期待であったり、県政に対しても、新しいものを求める市民が、つくば市においては、たくさんいるのだろうということが示された結果だと思っています。その中で、新しい方々も含めて今回の改選になりました。合計5人の皆さんがどのように県政で影響を発揮していくかというのは、これは県の方に聞いていただきたいと思います。先ほど出て来ているようなテーマ等について、地元の県会議員の皆さんにも声を大きく出していただいて、市と県をきちんとつないでいただくことであったり、あるいは県政の問題として、つくば市の中にあるものについて、積極果敢に取り組んでいただきたいと思います。新しく当選された方も含めて、おそらくそのような思いを持って選挙に出られたと私は認識していますので、そこは大いに期待をしていますし、連携も深めていきたいと思っています。

## ■つくばエクスプレスの延伸について

### 記者C

現在、県内のどこに延伸するかが注目されていますが、従来からつくば市は、東京駅への延伸の方が先で、羽田や、より先へ延伸するようなことを考えていると思います。そのような中で、先日東京都が新しい臨海地下鉄を作って、それとTXをつなぐのも1つの可能性というようなことをおっしゃったかと思うのですが、それを踏まえて、例えば、つくば市として国に何か要望するなど、そのような計画があるのか、国でなくても千葉県や埼玉県、東京都などと連携して、何かアクションを起こすような考えがあるかということのかを教えてください。

## 市長

沿線自治体とは常に情報共有をしていますし、定期的に集まりを持っています。県内であれば、つくばみらい市、守谷市との3市での協議会がありますし、千葉県を含めた7市の協議会があり、さらに都延伸を求めている東京都内の自治体も入った会合も定期的に持っています。随時、それぞれの組織で、首都圏新都市鉄道株式会社と県に対して様々な形での要望活動というのは行っていますし、今回の構想を受けても、首都圏新都市鉄道株式会社に対してはその詳細等についての情報共有と協議についての要望をしています。我々としては、そのような動きをこれまでもしてきましたし、

これからも進めていきたいと思っています。

### **記者C**

定期的に様々な会合を持っているということはわかりましたが、今回のことを受けて特別に何かしようということはないのでしょうか。

### **都市計画部長**

東京駅までの延伸についての要望書を7月に出しています。臨海線についての文言も入ってはいますが、直接そこについての要望書は提出しておりません。

### **総合交通政策課**

つくばエクスプレス沿線7市首長懇談会がありまして、流山市の井崎市長の発案で、東京都でも臨海地下鉄構想の中でこちらの方の優先順位を第一に上げるということがあったため、改めて首都圏新都市鉄道株式会社に対して、東京駅延伸についての情報収集など、臨海地下鉄構想を踏まえてやっていただくような要望書を、今年度中にもう一度出してはどうか、というお話がありました。今年度の事務局は柏市ですので、柏市を中心に要望書を取りまとめているところです。まだ、首都圏新都市鉄道株式会社に要望書は出していません。

### **終了**